

# 地域史

## シンポジウムの8年

— 実施報告書 —

茨城大学人文学部

地域連携委員会



## 序にかえて—地域史シンポジウムとは—

「地域史シンポジウム」は、茨城大学人文学部が開催する、地域連携事業の一つです。おもに歴史・文化遺産コースの教員・学生が主体となって、企画・準備・実施にあたっています。

今日、世の中には実に多くの文化事業が開催されています。そしてシンポジウムや講演会には、さまざまなカタチがあります。県や市町村や公民館・博物館・資料館など、主催者も多様です。事業の開始にあたり、私たちは、地方国立大学の学部が主催するシンポジウムはどうあるべきか、考えました。結論は、「研究成果を分かりやすく供給するだけのシンポは止めよう」「大学なのだから学界での議論や、大学での調査研究成果を、可能な限りそのまま、地域の皆様にお届けする企画にしよう」「市民と直接向き合う事業への関わりを通して、学生が学べる場としよう」というものでした。

こうした方針から取り組んできた地域史シンポジウムは、さいわい地域住民の皆様を受け入れられ、多くの研究者・関係者の関心を惹きつけ、毎回大変たくさんの参加者を集めています。今年度で、第8回を迎え、すっかり定着したと言ってよいでしょう。

この実施報告書は、これまでの取り組みを総括し、今後のシンポジウムに活かそうとするものです。各回の事業概要を示し、担当した教員・院生・学生の生の声を集めています。本書が、地域史シンポジウムという、人文学部の地域連携事業の点検・改善の参考資料となれば幸いです。

2013年3月31日

茨城大学人文学部 教授（地域連携委員）高橋 修

## 目 次

### 地域史シンポジウムの記録

第1回「茨大はお宝がいっぱい！」・第2回「茨城の時代精神」 .....	2
第3回「北関東の武士（もののふ）たち」 .....	3
第4回「北関東の武士（もののふ）たちⅡ」 .....	4
第5回「よみがえる 戦国の城」 .....	5
特別展・ヒストリーツアー .....	6
ミニ座談会「第3回～第5回地域史シンポジウムをふりかえって」 .....	7
第6回「茨城から世界史研究・世界史教育を考える」 .....	10
インタビュー「『日本史』・『世界史』の枠を越えるために」 .....	11
第7回「古代常陸の原像」 .....	12
インタビュー「第7回シンポジウムを振り返って」 .....	13
第8回「茨城の鎌倉街道—その歴史と沿道の文化遺産—」 .....	14
シンポジウムの裏側・お客様の声 .....	15
次回のシンポジウムに向けて .....	16

# 第1回

## 「茨大はお宝がいっぱい！ —大学がもつ文化的資産の保存・公開・活用をめぐる—」

会場：茨城大学水戸キャンパス 理学部インタビュー・スタジオ  
日時：2005年11月30日（水）  
参加者：50名

### プログラム

#### 開会挨拶

報告1「五浦美術文化研究所所蔵品—岡倉天心の遺品や関連資料—」

教育学部教授、五浦美術文化研究所長 小泉晋弥

報告2「菅文庫—幕末水戸藩の歴史学者が集めた国書・漢籍—」

教育学部教授 前川捷三

報告3「図書館貴重図書室所蔵資料—県内の古文書や古記録—」

人文学部助教授 磯田道史

コメント「文化的資産の保存・公開・活用を目指して」

人文学部助教授 高橋 修

パネルディスカッション 司会 人文学部教授 佐々木寛司

地域連携シンポジウム

## 茨大はお宝がいっぱい！

—大学がもつ文化的資産の保存・公開・活用をめぐる—

**日時** 11月30日（水）14時～16時

**場所** 茨城大学理学部総合研究棟1Fインタビュースタジオ（水戸キャンパス 水戸市文京2-1-1）

**入場** 無料（地域の方々・学生・教員、どなたでも自由に参加できます）

**構成**

開会挨拶

報告1「五浦美術文化研究所所蔵品—岡倉天心の遺品や関連資料—」  
小泉晋弥（教育学部教授、五浦美術文化研究所長）

報告2「菅文庫—幕末水戸藩の歴史学者が集めた国書・漢籍—」  
前川捷三（教育学部教授）

報告3「図書館貴重図書室所蔵資料—県内の古文書や古記録—」  
磯田道史（人文学部助教授）

コメント「文化的資産の保存・公開・活用を目指して」  
高橋 修（人文学部助教授）

パネルディスカッション  
司会 佐々木寛司（人文学部教授）

◆当日10時より17時まで、図書館1階展示室で、シンポジウムに関連する資料を特別公開しています。合わせてご覧ください。  
◆駐車場に限りがあります。ご来場にはできるだけ電車・バス等をご利用ください。

主催 茨城大学人文学部地域連携委員会  
問合せ 茨城大学人文学部 佐々木寛司研究室 029-228-8421  
高橋 修 研究室 029-228-8120

# 第2回

## 「茨城の時代精神」

会場：茨城大学水戸キャンパス 共通教育棟2号館46番教室  
日時：2006年11月18日（土） 参加者：80名

### プログラム

#### 【報告1】

「水戸学の時代精神—あらたな会沢正志斎像の模索—」

東北大学助手 桐原健真

#### 【報告2】

「橋孝三郎と現代」

茨城大学五浦美術文化研究所客員所員 菅谷 務

#### 【報告3】

「自立の根拠地をどう構想するか—地域主義の今—」

前東海村村議 相沢一正

司会・進行 茨城大学教授 佐々木寛司

#### 地域連携シンポジウム

## 茨城の時代精神

混沌とした時代状況を見据えつつ、中心へ向かう途程を模索する思想を「時代精神」と呼ぶならば、その「高揚期」が茨城の地においても頻々と繰り返されてきました。真摯な情熱を注ぎ始めたとき、近代の矛盾が時代の表裏へと露呈する。『西洋学』や『農本主義』を掲げ所として、次なる時代の構想が次第に生み出されました。ひるがえって今日、現代社会の行き詰まりが浮き彫りとなるなかで、その物質社会の根源を問いつつ「地域主義」の思想と行動が産声を挙げました。

このシンポジウムでは、茨城という土地にのみ生じた「近代／現代」を見据えた思想を、歴史と現実との「対照」を通じて、その「時代精神」の意味を考えてみたいと思っています。

【報告1】「水戸学の時代精神—あらたな会沢正志斎像の模索—」  
桐原健真（東北大学助手）

【報告2】「橋孝三郎と現代」  
菅谷 務（茨城大学五浦美術文化研究所客員所員）

【報告3】「自立の根拠地をどう構想するか—地域主義の今—」  
相沢一正（前東海村村議）

司会・進行 佐々木寛司（茨城大学人文学部教授）

**日時** 11月18日（土）午後2時～4時  
**場所** 茨城大学水戸キャンパス（水戸市文京2-1-1） 共通教育棟2号館46番教室  
**主催** 茨城大学人文学部地域連携委員会  
**共催** 近代茨城地域史研究会／茨城大学人文学部史学専攻会  
**連絡先** 茨城大学人文学部 佐々木寛司研究室（電話）029-228-8421

※当日、駐車場は用意できません。電車・バス等でご来場ください。  
入場は無料です。申し込みも不要です。どなたでもご参加いただけます。

# 第3回

## 「北関東の武士（もののふ）たち —新しい中世武士団のイメージ—

会場：茨城大学水戸キャンパス 理学部インタビュー・スタジオ  
人文学部講義棟10番教室

日時：2007年12月9日（日）

参加者：300名

### プログラム

#### 基調講演

「『坂東武士』の実像」

京都女子大学教授 野口 実

#### 報告

「関東武士団研究の軌跡」

茨城大学非常勤講師 伊藤瑠美

「常陸平氏再考」

茨城大学教授 高橋 修

「東国武士団と都鄙間の文化交流—下総下河辺氏と関戸の宝塔—」

古河第二高等学校教頭 内山俊身

「武士団と町場—下野小山氏—」

栃木県立文書館副主幹 松本一夫

「武士団と寺院、門前町—上野新田氏と世良田長楽寺—」 駒場東邦中・高等学校教諭 田中大貴

#### コメント

常磐大学教授 糸賀茂男

#### パネルディスカッション

コーディネーター

茨城大学教授 酒井紀美・高橋 修

### フォトグラフ

茨城大学人文学部・地域史シンポジウム

## 北関東の武士(もののふ)たち

—新しい中世武士団のイメージ—

現在、中世史研究の世界では、どんな武士団のイメージが創られようとしているのか。北関東の武士団のイメージはどうか。第一線で活躍する研究者に、「新しい中世武士団の姿を、事例に即してわかりやすく提示していただき、会場を交えたディスカッションを行います。」

**日時** 2007年12月9日(日) 11時～17時(休憩12時～13時)

**場所** 茨城大学水戸キャンパス(水戸市文照2-1-1) 理学部インタビュー・スタジオ  
アクセス:水戸駅から常磐バス(常磐線見沼から)で約15分「常大前」(バス下車)

<b>基調講演</b>	「『坂東武士』の実像」	京都女子大学教授 野口 実
<b>報告</b>	「関東武士団研究の軌跡」	茨城大学非常勤講師 伊藤瑠美
	「常陸平氏再考」	茨城大学教授 高橋 修
	「東国武士団と都鄙間の文化交流—下総下河辺氏と関戸の宝塔—」	古河第二高等学校教頭 内山俊身
	「武士団と町場—下野小山氏—」	栃木県立文書館副主幹 松本一夫
	「武士団と寺院、門前町—上野新田氏と世良田長楽寺—」	駒場東邦中・高等学校教諭 田中大貴
<b>コメント</b>		常磐大学教授 糸賀茂男
<b>パネルディスカッション</b>		コーディネーター 茨城大学教授 酒井紀美・高橋 修

■主催 茨城大学人文学部  
■共催 茨城大学五浦美術文化研究所  
■協賛 茨城県立歴史館 茨城中世史研究会 茨城大学中世史研究会  
■問合せ 茨城大学人文学部 高橋修研究室 029-228-8120(直通) oom@mx.narakia.ac.jp

※入場は無料です。申し込みも不要です。どなたでもご参加いただけます。



# 第4回

## 「北関東の武士（もののふ）たちⅡ —みえてきた中世武士団の実像—

会場：茨城大学水戸キャンパス 共通教育棟10番教室  
日時：2008年12月14日（日）  
参加者：250名

### プログラム

#### 基調講演

「平泉藤原氏と北関東の武士団」

東北芸術工科大学教授 入間田宣夫

#### 報告

「金砂合戦と常陸佐竹氏」

茨城県立歴史館首席研究員 宮内教男

「常陸八田氏（小田氏）の成立」

茨城大学教授 高橋 修

「下野宇都宮氏と在京」

宇都宮北高等学校教諭 江田郁夫

「下野藤姓足利一族と清和源氏」

太田女子高等学校教諭 須藤 聡

「下野那須氏—北辺の関東武士—」

大田原市那須与一伝承館学芸員 阿部能久

「武蔵国と秩父平氏」

東海大学非常勤講師 落合義明

#### コメント

市立市川歴史博物館学芸員 湯浅治久

東北学院大学准教授 七海雅人

#### コーディネーター

茨城大学教授 酒井紀美・高橋 修

### フォトグラフ



# 第5回 「よみがえる 戦国の城」

会場：常陸大宮市文化センター ロゼホール  
日時：2009年11月1日（日）  
参加者：350名

## プログラム

### 第1部 記念講演会 〈常陸大宮に城が造られた時代—室町・戦国期を語る—〉

「室町時代の戦争と村一応仁の乱をめぐる」 茨城大学教授 酒井紀美  
「戦国時代の戦争と武士・百姓—北条領の場合—」 成蹊大学教授 池上裕子

### 第2部 パネルディスカッション 〈常陸大宮の城から何が見えるのか〉

「山城の歩き方、楽しみ方」 常総戦隊ヤブレンジャー 余湖浩一  
「館〈たて〉と宿〈しゆく〉の戦国社会—佐竹一族と常陸大宮の城—」 茨城大学中世史研究会  
常陸大宮市歴史民俗資料館

「高部館跡とその周辺—よみがえる戦国世界—」 前川辰徳  
「河内館跡とその周辺—土豪の城の風景—」 高橋 修  
「山方城跡とその周辺—常陸北部の境目の城—」 高橋裕文  
「小瀬館跡とその周辺—街道の結節点を押さえる城—」 高村恵美  
「長倉城跡とその周辺—地籍図からよみがえる中世の城—」 額賀大輔  
「部垂城跡とその周辺—水陸交通と部垂城の位置—」 牡丹健一

コメント 大正大学准教授 佐々木倫朗  
東京工業高等専門学校非常勤講師 今泉 徹

コーディネーター 茨城大学教授 高橋 修

## フォトグラフ

常陸大宮市・茨城大学地域連携事業

シンポジウム「よみがえる 戦国の城」  
(第5回 茨城大学人文学部地域史シンポジウム)

常陸大宮市と茨城大学人文学部との地域連携事業として、常陸大宮市域の山城跡とそれを囲む歴史的景観に関する調査が実施されました。その成果の一部を「城」の視点から公開するためのシンポジウムです。第1部では、常陸大宮に城が築かれた時代背景について、室町・戦国時代の専門家に分かりやすく解説していただきます。第2部では、今回新たに作成した地図をもとに、調査成果を資料ごとに報告します。

日時 平成21年(2009)11月1日(日) 10時30分～17時(休憩12時～13時)

場所 常陸大宮市文化センター ロゼホール  
茨城県常陸大宮市中宮町3135-6 0295-53-7200  
茨城県大宮駅下車徒歩5分、駐車場あり。

第1部 記念講演会 〈常陸大宮に城が造られた時代—室町・戦国期を語る—〉  
「室町時代の戦争と村一応仁の乱をめぐる」 茨城大学教授 酒井紀美  
「戦国時代の戦争と武士・百姓—北条領の場合—」 成蹊大学教授 池上裕子

第2部 パネルディスカッション 〈常陸大宮の城から何が見えるのか〉  
「山城の歩き方、楽しみ方」 常総戦隊ヤブレンジャー 余湖浩一  
「館〈たて〉と宿〈しゆく〉の戦国社会—佐竹一族と常陸大宮の城—」  
茨城大学中世史研究会  
常陸大宮市歴史民俗資料館

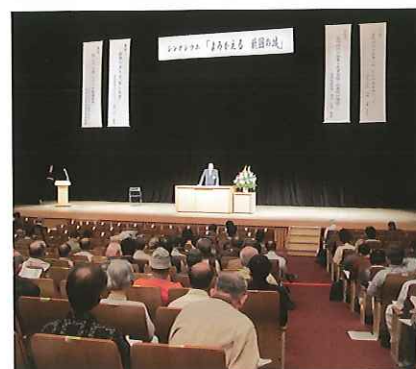
コメント 大正大学准教授 佐々木倫朗  
東京工業高等専門学校非常勤講師 今泉 徹

コーディネーター 茨城大学教授 高橋 修

問合せ先 茨城大学人文学部 地域史研究会 TEL:019-328-8100(直通) E-mail:osm@ms.rivak.ac.jp  
常陸大宮市歴史民俗資料館 TEL:0295-52-1111(内線324) FAX:0295-53-6010 E-mail:tkabu@city.tachibana.ac.jp

主催 常陸大宮市・茨城大学人文学部  
共催 茨城大学五輪会・茨城大学研究所  
協賛 常陸大宮市教育委員会・茨城県立総合研究センター  
常陸大学中世史研究会 茨城大学考古学研究会 大宮城跡研究会  
常陸大宮市歴史民俗資料館 常陸大宮市歴史民俗資料館  
常陸大宮市歴史民俗資料館 常陸大宮市歴史民俗資料館

※参加費は無料です。どなたでもご参加いただけます。







# ミニ座談会 第3回～第5回地域史シンポジウムをふりかえって

日時：2013年2月16日

場所：人文棟C306

参加者

高橋 修

(茨城大学人文学部教授、  
第3回～第5回シンポを企画・実施)

前川辰徳

(大田原市那須与一伝承館学芸員、  
第3・4回に大学院生として参加、  
第5・8回に報告者として登壇)

額賀大輔

(水戸市埋蔵文化財センター嘱託職員、第4・5回に大学院生として参加、第5・8回に報告者として登壇)

司会

須藤千裕 (茨城大学大学院生)



司会：本日はお忙しい中ありがとうございます。これから、第3回から第5回まで連続して開催された中世史をテーマとする地域史シンポジウムについてのお話を伺ってきたいと思います。

3名：よろしくお願ひします。

## 第3回・第4回「北関東の武士たち」から

司会：まず始めに第3回「北関東の武士（もののふ）たち」の開催の経緯をお聞かせください。

高橋：第1回、第2回と、地域史シンポジウムは開催されてきたわけですが、大学教員・学生を巻き込んだ、コースの事業として取り組まれたのは第3回が初めてです。特に大学院教育の一環として、大学院生を運営の柱に据えて取り組んだのも、第3回からです。

司会：テーマを「北関東の武士」と設定したのはなぜですか？

前川：武士論が盛んな近年の研究状況の中で、北関東の武士を総体的に捉えた研究成果はほとんどありませんでした。鎌倉幕府と関わりの深い南関東と比べても、北関東の武士団の研究のまとまりはありません。

高橋：でも個別武士団研究にはそれなりの蓄積がありました。それをとにかく全部集成するとどうなるのか。武士団をめぐる、何か新しい理論的探求ができるのではないかと考えました。そこで当時、大学院生で、中世武士団を研究テーマとしていた前川君と、「北関東の武士たち」を企画したわけです。

前川：報告者には、記念講演の野口実先生をはじめ、新田氏・宇都宮氏・藤姓足利氏等、最先端の実証的成果を発表しておられる先生方にお集まりいただきました。

司会：当日は会場変更等もあり、大変苦勞されたとお聞きしましたが・・・。

高橋：本当に大変でした（苦笑）。前回までの参加者数から、100名程を予測して会場を設定しましたが、当日は300人を超える来場者があって・・・。予備に取っておいた大教室に、昼休みの間を利用して会場を移設する荒業で乗り切りました。

額賀：レジュメの増刷や会場変更に伴う案内等、学生総出でお手伝いしました。

前川：来場者の熱意にも驚きました。想像以上に多くの方が、この地域の中世史、北関東の武士団に興味を持っているのだと、認識を改めました。

司会：この大盛況が次の第4回「北関東の武士（もののふ）たちⅡ」につながったわけですね。



高橋：第3回の続きが聞きたいという声も多く、第4回も同じテーマで、パートⅡとして開催することになりました。第3回は、研究が盛んな「都の武士論」を意識した内容になりましたが、第4回は、やはり近年、多くの事実が明らかになった奥州との関係を重視した企画になりました。

司会：これら2回分のシンポの成果が、論文集『実像の中世武士団—北関東のもののふたち—』（2010年、高志書院）として刊行されたのですね。

高橋：そうです。当初から学術的成果を目指していましたから、講演・報告の先生方のご協力を得て、論文集という形でまとめることができた意義は大きいと思います。幸いこの論文集は北関東武士団研究の最前線・到達点を示したものと学会にも受け入れられ、多くの研究者から引用されています。

## 常陸大宮市と連携した第5回シンポジウム

司会：続いて第5回シンポジウム「よみがえる 戦国の城」に話を進めます。

高橋：第5回は茨城大学人文学部と常陸大宮市との地域連携協定の中で実現した「常陸大宮市域の山城跡・山岳霊場とその周辺の活用できる資産に関する分布調査」の成果を地域に還元することを目的として開催しました。

前川：当日は、酒井紀美先生と池上裕子先生に、城郭が造られた室町・戦国時代の社会について御講演いただき、民間の城郭史研究者・余湖浩一さんに城跡歩きの楽しさについて語っていただきました。研究報告では、私が高部城、額賀君が長倉城のように、それぞれの調査担当者が、遺跡の現況や歴史的背景について、図版やパワーポイントを使って報告しました。当日は350名を超える来場者を迎え、市民の中世史、特に中世城郭に関する関心の高さを感じました。

司会：同時に常陸大宮市歴史民俗資料館で特別展「館と宿の中世」を開催されたそうですね。

高橋：資料館との共同で、常陸大宮市の山城とそれに関する周辺の文化財を集めた展示を行いました。常陸大宮市内にはたくさんの棟札が残されており、他の史料では確認できない中小の武士の姿が明らかになるなど、ここでも学術的な成果を残すことができました。

額賀：展示会場では一部屋を使って大きな長倉城下に起源する長倉宿の地籍図を展示しました。また、山城の姿を具体的に理解してもらうため、ウレタンや石膏を使って高部城の模型を作製しました。その模型は現在でも資料館で活用されています。

司会：ヒストリー・ツアーはどのような試みだったのですか？

高橋：市民に実際に城跡を体験してもらおうという企画でした。一般コース（部垂城跡・前小屋城跡）と健脚コース（高部城跡）の2種類のツアーを準備して、私や大学院生が案内しました。市民だけでなく、全国の城郭ファンも参加するイベントとなりました。

## 地域史シンポジウムを運営して

司会：それでは最後に地域史シンポジウムに関わる中で、この事業の意義や役割について、コメントをお願いします。

額賀：私は、第4回・第5回には大学院生として運営に関わりました。この経験から、イベントを企画・運営するということのノウハウを体得することができたと感じています。ここで得た知識や経験は現在仕事を上でも大きな糧となっています。また、景観復元の研究方法等、歴史学の新しい方法を学ぶ機会ともなりました。

前川：私も、シンポジウムに関わる中で研究者として、学芸員としての基礎を築くことができたと考えています。特に、運営を行う際に聴く側のことを考える意識を身につけることができたのは大きな収穫でした。若手の研究者が運営を通じて自分の生き方・働き方を考える場として、地域史シンポジウムに期待しています。

高橋：これまで多くの地域史シンポジウムに関わる中で、市民の方に、こうした学術的な催しも受け入れられるのだということを理解しました。わかりやすいだけでなく、市民の学問に対する強い欲求に応えられるだけの内容のあるシンポジウムを企画していかなければならないということを強く実感しました。この点で、公民館や博物館・資料館の講演会などと、差別化できるわけです。また私自身についていえば、こうしたシンポジウムを通じて北関東を明確に意識して研究を進めていくきっかけにもなりました。地域史シンポジウムの取り組みが、自分の研究の新たなスタートにつながったと感じています。

司会：今日は貴重なお話をありがとうございました。

## 「茨城から世界史研究・世界史教育を考える —「日本史」／「世界史」を超えるところみ—

会場：茨城大学水戸キャンパス 人文学部講義棟10番教室  
日時：2010年12月4日（土）  
参加者：130名

### プログラム

#### 第1部 どのような世界史研究・世界史教育を目指すか

「日本からの世界史を求めて—「ケンペル」から「ペニョフスキー」まで—

世界史研究所長、アジア世界史学会会長、法政大学教授 南塚信吾

「高校の歴史教育をどう改革するか」

日本学術会議高校地理・歴史科教育分科会委員長、東京女子大学教授 油井大三郎

#### 第2部 茨城の世界史教育

「世界史教育の〈可能性〉を探る」

茨城県立高校教員、「世界史」教員 岡崎賢治

「『日本史』教員から見た世界史教育」

元茨城県立高校教員、元「日本史」教員 高橋裕文

コメント

茗溪学園高校教員 山本 茂

茨城大学人文学部3年生 稲田夢希奈

#### 第3部 全体討議

### フォトグラフ

茨城大学人文学部・地域史シンポジウム

## 茨城から世界史研究・世界史教育を考える

—「日本史」／「世界史」を超えるところみ—

**開催日** 2010年12月4日(土曜日)  
12時30分～17時15分(開場は12時)

**場所** 茨城大学水戸キャンパス 人文学部講義棟10番教室  
アクセス JR水戸駅から茨交バス(登乗り場から)で約15分、「茨大前」バス停下車。

**第1部 どのような世界史研究・世界史教育を目指すか**

- 日本からの世界史を求めて—「ケンペル」から「ペニョフスキー」まで—  
南塚 信吾(世界史研究所長、アジア世界史学会会長、法政大学教授)
- 高校の歴史教育をどう改革するか  
油井大三郎(日本学術会議高校地理 歴史科教育分科会委員長、東京女子大学教授)

**第2部 茨城の世界史教育**

- 世界史教育の〈可能性〉を探る 岡崎 賢治(茨城県立高校教員、「世界史」教員)
- 「日本史」教員から見た世界史教育 高橋 裕文(茨城県立高校教員、元「日本史」教員)
- コメント ◎山本 茂(茗溪学園高校教員) ◎茨城大学人文学部学生

**第3部 全体討議**

●主催：茨城大学人文学部  
●協賛：茨城大学五浦美術文化研究所 茨城大学人文学部歴史・文化遺産コース専攻会  
●問合せ 茨城大学人文学部 深澤研究室  
〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1 Tel 029-228-8135(直通)  
E-mail fukasawa@mx.ibaraki.ac.jp



## インタビュー 茨城大学教授 深澤安博 「『日本史』・『世界史』の枠を越えるために」

Q. なぜ世界史教育をテーマに選んだのですか？

A. 2007年の高校世界史未履修問題以降、世界史をどのように教えるべきかが話題となりました。特に、歴史教育において「日本史」と「世界史」（または、西洋史・東洋史）が分かれてしまっている点が問題視されていましたので、何とかその壁を越えられないか考える場を設けたいと考えたのが今回の企画のきっかけです。



Q. 本シンポジウム開催・運営にあたって苦勞したことはありますか？

A. 大変苦勞しました（苦笑）。世界史というテーマを地域史とどのように関連付けるのかずっと悩みました。地域史シンポジウムのテーマに世界史を取り上げることによって、身近な地域史に関心を持つリピーターの方々が参加しないのではないかとずっと不安を感じていました。幸いに、当日は130人ほどの来場者を迎えることができました。

Q. シンポジウム当日はどのような議論が行われましたか？

A. 当日は多くの方から意見をいただいて、率直な議論を行うことができました。世界史離れを加速させるものとして、世界史教科書と大学受験の問題が話題に上りました。世界史教科書の記述が詳細になるとともに、世界史は受験に不利な暗記科目と考えられるようになってきています。そこで、世界史を単なる暗記教科にしないためには何が必要か、当日議論が交わされました。また、「日本史」・「世界史」の枠を越えて、知識ばかりでなく歴史的思考力の習得にも重きを置く「歴史基礎」科目にも注目が集まりました。会場にいるみなさんと従来の世界史教育に対する問題意識を共有することができたのが、大きな成果だと考えています。これから、様々な場で議論が膨らんでいくことを期待しています。

Q. 今回のシンポジウムに対する反響はありましたか？

A. 今回のように世界史をテーマとしたシンポジウムが地方で行われることはこれまでありませんでした。そのため、本シンポジウムは日本でも初めての試みと言えるでしょう。今回のシンポの成功を受けて、世界史シンポジウム開催を検討している国立大学もあると聞きます。

Q. 今後の地域史シンポジウムに対する展望があれば教えてください。

A. 第10回地域史シンポジウムで再び世界史を取り上げたいと考えています。テーマ設定に関しては現在検討しているところですが、茨城県という地域と世界史をつなぐ試みができないか模索しています。

# 第7回

## 「古代常陸の原像—那賀郡の成立と台渡里官衙遺跡群—」

会場：茨城大学水戸キャンパス 人文学部講義棟10番教室  
日時：2011年12月10日（土）・11日（日）  
参加者：220名

### プログラム

#### 調査報告

「台渡里官衙遺跡群における近年の調査成果」	水戸市教育委員会 川口武彦
「茨大運動場地点で発見された堀状施設について」	茨城大学人文学部 田中 裕
	茨城大学大学院人文科学研究科（大学院生） 小林佳南子

#### 基調講演

「古墳時代からみた豪族居宅の諸相」	新潟大学人文学部 橋本博文
「国郡制の形成と台渡里官衙遺跡群の成立」	島根大学法文学部 大橋泰夫

#### 基調報告

「古代官衙をめぐる窯業生産と商品流通—水戸市台渡里官衙遺跡群を中心として—」	水戸市埋蔵文化財センター 渥美賢吾
「古代官衙成立期における関東の土器様相」	東海大学文学部 田尾誠敏
「常陸国那賀郡における古代瓦の変遷とその背景」	かすみがうら市立志士庫小学校 黒澤彰哉
「下野国における官衙遺跡の概要—那須・河内・芳賀郡の調査事例を中心として—」	那須風土記の丘資料館 眞保昌弘
「房総における地方官衙遺跡の様相」	千葉県教育振興財団 今泉 潔

#### 討論

### フォトグラフ

台渡里官衙遺跡群国史跡追加指定記念  
第7回茨城大学人文学部地域史シンポジウム

## 古代常陸の原像

—那賀郡の成立と台渡里官衙遺跡群—

2011年12月10日（土）開会13:00（開場11:00）  
11日（日）9:30（開場9:00）

茨城大学 水戸キャンパス（水戸市文京2-1-1）  
人文学部講義棟10番教室  
JR水戸駅から茨大バス7番乗り場より約13分（徒歩10分）

講演：橋本 博文（新潟大学人文学部）  
大橋 泰夫（島根大学法文学部）

パネラー： 渥美 賢吾（水戸市埋蔵文化財センター）  
田尾 誠敏（東海大学文学部）  
黒澤 彰哉（かすみがうら市立志士庫小学校）  
今泉 潔（千葉県教育振興財団）  
川口 武彦（水戸市教育委員会）  
小林 佳南子（茨城大学大学院人文科学研究科）

コーディネーター：田中 裕（茨城大学人文学部）

入場料無料・申込不要  
どなたでもご参加いただけます

主催：茨城大学人文学部・水戸市教育委員会  
後援：茨城大学五浦美術文化研究所・茨城大学考古学研究会  
お問い合わせ：茨城大学人文学部 田中裕研究室 029-228-8113 [mark@mx.barak.ac.jp](mailto:mark@mx.barak.ac.jp)  
水戸市埋蔵文化財センター 029-269-5090

※駐車場が限られますのでお早めにお越しください。また、11日は昼食の持参をおすすめいたします。



## インタビュー 茨城大学准教授 田中裕 「第7回地域史シンポジウムをふりかえって」

Q. シンポジウムのテーマと狙いについて教えてください。

A. 私が研究しているテーマの一つに、「常陸国」ができる経緯を解明するというものがあり、その研究のために多くの情報をもたらす遺跡（台渡里官衙遺跡群）がたまたま茨城大学の近くにありました。元々、その遺跡を市民に知ってもらおうという活動を長く行っていましたので、そのためにも多くの専門家を集め、議論するのは良い機会であるということで、このテーマを選びました。学術的には、常陸国を題材に、古代国家、特に律令国家の成立過程を浮き彫りにするという狙いがありました。



Q. シンポジウムの準備等で大変だったこと、苦労話等ありましたらお聞かせ下さい。

A. 今回主催は初めてでしたが、学生も含め、台渡里遺跡の発掘実習や地域住民に向けての現地説明会、及び展示はすでに何度も行っており、運営の仕方についてある程度経験はあったので、そこまで苦労しませんでした。ただ、季節（暖房の問題）やお客さんの層というものは、毎回同じものではないので、それに合わせて対応をかえなければならぬというのが苦労した点です。

Q. 今回のシンポジウムで得られた学術的な成果について教えてください。

A. 台渡里官衙遺跡群は、律令制が出来た後の官衙として、あるいは廃寺跡として昔から知られていました。今回のシンポジウムでは、律令ができる頃（7世紀）、常陸国がまさに成立するかというときにこの台渡里官衙遺跡群は成立している、ということがまざまざと分かりました。また遺跡の近くには古代の官道（東海道）というのが通っていて、それとの関係性も示されました。そうすると五畿七道という、地方支配のシステムがいつ整備されたのかという論点に直接メスを入れる大事な資料として、台渡里官衙遺跡群の位置づけが明確になったと言えるでしょう。

Q. 今回のシンポジウムで、地域住民の方々に学術的成果を還元できましたか。

A. はい。このようなシンポジウムでアンケートを取ると、「難しくてわからなかった」という意見をいただくことが多いのですが、今回はよくわかったというのが相当数を占めていました。その点で市民の皆さんによく伝わったのかなと思っています。

Q. 今後考古学のシンポジウムを行うとしたら、どのような内容でやってみたいと思いますか。

A. まだ考えていませんが、学生たちが一緒に参画できるような内容のものをやりたいと考えています。また、地域連携事業ですから、地域の自治体などと連携して行える企画をやりたいと思います。

# 第8回

## 「茨城の鎌倉街道—その歴史と沿道の文化遺産—」

会場：茨城大学水戸キャンパス 人文学部講義棟10番教室  
日時：2012年12月1日（土）  
参加者：220名

### プログラム

#### 基調講演

「鎌倉街道を考える—常総の「道」と中世武士団—」 茨城大学教授 高橋 修

「考古資料からみた中世常陸・北下総の道 —周辺地域との比較検討—」  
土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員 比毛君男

#### 現況報告—茨城の鎌倉街道—

「古河市・境町の鎌倉街道」	茨城県立古河第一高等学校教頭	内山俊身
「土浦市の鎌倉街道」	土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員	比毛君男
「かすみがうら市の鎌倉街道」	かすみがうら市郷土資料館学芸員	千葉隆司
「五万堀古道—笠間市の東海道—」	茨城県立歴史館首席研究員	大関 武
「阿見町・牛久市の鎌倉街道」	水戸市埋蔵文化財センター嘱託	額賀大輔
「利根町の鎌倉街道」	大田原市那須与一伝承館学芸員	前川辰徳
「ひたちなか市の鎌倉街道」	茨城県立歴史館首席研究員	飛田英世
「桜川市・筑西市の鎌倉街道」	桜川市教育委員会文化財課主幹	宇留野主税

### フォトグラフ

第8回 茨城大学人文学部 地域史シンポジウム

## 茨城の鎌倉街道

### —その歴史と沿道の文化遺産—

いま、中世の道が注目されています。沿道に沿って町場が発見し、人物、文化が自覚的に行き交いました。道の村が合戦の拠点となり、道を通じた地域社会のあり方が、武官組合の力も支えを定むようであり、鎌倉時代と御家人たちの拠点を結ぶ幹線道を「鎌倉街道」と呼びます。茨城県内（常陸・下総諸郡）は、そのうち下道と中道（奥人道）とが通じており、これら本道から支道が分かれ出ているようです。

現在、茨城県教育委員会では、「歴史の道」調査事業を進めています。その中で、県内の「鎌倉街道」も調査されてきた道筋について、初めて本格的な調査報告が行われています。今回の地域史シンポジウムの中心は、調査の途中経過を報告し、それを近年の中世道研究の進展に照らした時、何が見えてくるのか、昔ほどとちがったところはないか、

**日時** 平成24(2012)年12月1日(土曜日) 12時30分～17時30分  
(開場は11時30分)

**場所** 茨城大学人文学部 / 講義棟10番教室  
アクセス：R水戸駅から茨交バス(7番乗り場)から約15分、(茨大前)バス停下車。

**プログラム**

【基調講演】  
「鎌倉街道を考える—常総の「道」と中世武士団—」 茨城大学人文学部教授 高橋 修  
「考古資料からみた中世常陸・北下総の道 —周辺地域との比較検討—」  
土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員 比毛君男

【現況報告—茨城の鎌倉街道—】  
牛久市、かすみがうら市、古河市、桜川市、境町、土浦市、利根町、ひたちなか市、結城市等を通る「鎌倉街道」の道筋と周辺の文化遺産についての現状報告です。

内山俊身（茨城県立古河第一高等学校教頭）／宇留野主税（桜川市教育委員会文化財課主幹）  
大関武（茨城県立歴史館首席研究員）／千葉隆司（かすみがうら市郷土資料館学芸員）  
飛田英世（茨城県立歴史館首席研究員）／額賀大輔（水戸市埋蔵文化財センター嘱託職員）  
前川辰徳（大田原市那須与一伝承館学芸員）

【主催】 茨城大学人文学部 【共催】 茨城県教育委員会  
【協賛】 茨城大学中世史研究会  
【後援】 茨城大学中世史研究会、かすみがうら市教育委員会、古河市教育委員会、桜川市教育委員会、筑西市教育委員会、土浦市教育委員会、利根町教育委員会、ひたちなか市教育委員会、結城市教育委員会、α上、α中  
【問合せ】 茨城大学人文学部 高橋修研究員 010-8512 水戸市文京2-1-1  
In 029-228-8120 Fax 029-228-8199 Mail osm@mx.ibaraki.ac.jp

入場は無料、先着200名、どなたでもご参加いただけます。





## シンポジウムの裏側

シンポジウムの成功には、裏方の力が欠かせません。地域史シンポジウムの準備・設営・当日の運営等には、歴史・文化遺産コースの学生たちが、裏方として参加しています。



## お客様の声

第8回地域史シンポジウムのアンケート結果より、お客様の声を抜粋しました。

- ・よい企画だった。
- ・大変勉強になった。ひたちなか市内にも存在していたのは驚き。
- ・とても分かりやすく説明されていた。茨城の鎌倉街道については初めて聞いたが、いずれの場所も行ったことがあり、イメージすることができた。
- ・歴史講座等では詳しく知る資料に恵まれなかったが、本日自分の住んでいる道路辺にも関わりがあったと思うと、また新たな感動を覚え、有意義な時間であった。
- ・毎年歴史シンポをやっているということであるが、大変有意義であり、今までの回に参加できなかったのは残念。常陸大宮の資料館でポスターを見たが、県南の博物館では見ていない。今後、県南地区でのPRを。
- ・茨城大学の特性を生かし、地域と密着した研究を続けることは大切であり、考古学との連携を深めようとしている姿勢も重要。ぜひ継続してほしい。また、午前中に基調講演を行ってもよいのでは。
- ・地道な研究の成果が豊富な資料に基づき説明され、理解が深まった。古代街道の道筋特定の苦勞が良く分かった。

## インタビュー 人文学部教授 佐々木寛司 「第9回地域史シンポジウムに向けて」

Q. 次回のシンポジウムについて、タイトルや内容等をどのように考えていますか。

A. いくつかタイトルの候補があり、一つは「明治維新と茨城地域」、もうひとつは「明治維新と過渡期社会」。いずれにしても中身は茨城地域を対象とする。地域史として総括するより明治維新という時代を過渡期として総括したいと思っている。内容に関してはまだ固まってないが、報告者はほとんど決まっている。報告は5~6本の予定している。一本は基調講演として、私が「明治維新と過渡期社会」を報告して、あ



と5~6本は個別報告で、一人10分程度になってしまうかもしれないが、これは茨城の具体的な地域史の問題を報告してもらおうと考えている。場合によってはもう一つ特別講演で、明治維新関係の報告者を呼ぶ可能性もある。

Q. 開催日程等は決まっていますか。例年通り12月ですか。

A. 12月は卒論や修論もあるから難しい。なるべく少しでも前にもってきたいと思っている。11月下旬か。日程は2日間ではなく1日の午後だけを予定している。

Q. 「明治維新」というテーマ設定はやはり佐々木先生のご専門だからですか。

A. その通り。本当は「近代の茨城」というように、テーマをもっと広げようと思ったが、範囲を狭めた方がまとめやすく、「明治維新」というタイトルの方が人を呼びやすいと考えた。

### 地域史シンポジウムの8年 —実施報告書—

発行日：平成25年(2013)3月31日

編集・発行：茨城大学人文学部 地域連携委員会

協力：茨城大学人文学部 歴史 文化遺産コース



